

別記1 様式

実質化された人・農地プラン

市町村	対象地区名	作成年月日	直近の更新年月日
孺恋村	大笹地区	令和3年3月30日	令和5年3月15日

1 大笹地区の現状

① 地区内の耕地面積	1,450ha
② アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	738ha
③ 地区内における60歳以上の農業者の耕作面積の合計	125ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	11ha
ii うち後継者がいない農業者の耕作面積の合計	23ha
④ 地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	102ha
【備考】 中心経営体(認定農業者等)	90農家

2 大笹地区の課題

① 離農者の農地の貸付は親戚などの近親者へ貸付される傾向にあり賃借料等に差もある。
② 農地集約は被災した時に規模が大きくなる。また、品種によって育てる条件が変わってくる。
③ グリーンベルトの未設置が多い。
④ 遊休農地等の管理、解消。

3 大笹地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

① 貸し手借り手は区域の実情に応じて農業の効率化や生産性の向上に配慮する。
② 各区域の中心経営体へ最善の集積・集約化を目標にする。
③ 自然環境に配慮し良好な営農条件の確保。
④ 集積・集約を考える農業経営者が見つかるまでの間を耕作できる状態に保つ。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

① 農地中間管理機構、農地法、農業経営基盤強化促進法による透明性のある賃貸借契約・使用貸借契約の推進。
②③ 環境保全型農業推進協議会へ働きかけ管理体制等の推進を行う。
④ 効率的かつ安定的な農業経営をする人に農地の所有権や耕作権を集約する。